

外科 研究業績 (2018年)

総説

- 1 ① Koichiro Ohashi, Michael Pimienta, Ekihiro Seki
- ② Alcoholic liver disease: A current molecular and clinical perspective
- ③ Liver Research
- ④ 2(4)
- ⑤ 2018
- ⑥ 161-172
- ⑦ This review highlights established and emerging concepts in ALD clinicopathology, their underlying molecular mechanisms, and current and future ALD treatment options.

症例報告

- 1 ① 西野 雅行、黒田 暢一、山崎 純也、児島 正道、大原 重保、宇多 優吾、濱田 哲宏、玉川慎二郎、松田 育雄、廣田 誠一
- ② 術後14年目に腸閉塞で発症した乳癌小腸転移の1例
- ③ 日本外科系連合学会
- ④ 第43巻4号
- ⑤ 2018
- ⑥ 572-579
- ⑦ 術後14年目に腸閉塞で発症した乳癌小腸転移の1例

学会発表(特別・教育講演、シンポジウムを含む)

- 1 ① 大原 重保、大橋 浩一郎、西野 雅行、山崎 純也、児島 正道、濱田 哲宏、宇多 優吾、豊島 慶雄、黒田 暢一

- ② 腹部CTで術前診断が可能であった子宮広間膜裂孔ヘルニア嵌頓の2例
 - ③ 口演
 - ④ 第80回日本臨床外科学会総会
 - ⑤ グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール
 - ⑥ 2018年11月22日～24日
 - ⑦ 比較的稀な疾患である子宮広間膜裂孔ヘルニアであるが、特徴的なCT所見により術前診断が可能であった。
- 2
- ① 大原 重保、西野 雅行、山崎 純也、児島 正道、濱田 哲宏、宇多 優吾、大橋 浩一郎
 - ② 径20cmの脾嚢胞に対し腹腔鏡下天蓋切除術を施行した1例
 - ③ デジタルポスター
 - ④ 第31回日本内視鏡外科学会総会
 - ⑤ 福岡国際会議場、マリンメッセ福岡
 - ⑥ 2018年12月6日～12月8日
 - ⑦ 径20cm大の巨大な脾嚢胞であったが、術中穿刺を併用し良好な視野で腹腔鏡下に天蓋切除術を施行した。
- 3
- ① 濱田哲宏, 錢鴻武, 大橋浩一郎, 宇多優吾, 大原重保, 児島正道, 西野雅行, 山崎純也, 黒田暢一.
 - ② 膣断端脱を合併した直腸脱に対して経会陰式全膣閉鎖術と腹腔鏡下直腸固定術を行った1例
 - ③ 一般口演
 - ④ 第73回日本大腸肛門病学会総会
 - ⑤ 東京
 - ⑥ 2018/11/9-10
 - ⑦ 直腸脱と膣断端脱に対して腹腔鏡手術と経会陰手術を併施する手術は有用な手法であると考えられた。
- 4
- ① 濱田哲宏, 大橋浩一郎, 宇多優吾, 大原重保, 児島正道, 西野雅行, 山崎純也, 黒田暢一.
 - ② 横行結腸ループ式ストーマ脱に対して腹腔鏡下に腹壁固定を行った1例
 - ③ 示説
 - ④ 第80回日本臨床外科学会総会

- ⑤ 東京
 - ⑥ 2018/11/22-24
 - ⑦ 腹腔鏡下にストーマ近傍の腸管を腹壁に固定して修復を行う方法は有用であると考えられた。
- 5
- ① 濱田哲宏, 豊島慶雄, 大橋浩一郎, 宇多優吾, 大原重保, 児島正道, 西野雅行, 山崎純也, 黒田暢一.
 - ② 鼠径ヘルニアの鑑別疾患: 成人発症Nuck管水腫その診断と治療について
 - ③ 講演
 - ④ 宝塚消化器病研究会
 - ⑤ 宝塚
 - ⑥ 2018/2/17
 - ⑦ 局在が皮下から鼠径管や皮下までに存在する症例では鼠径部切開法を選択する方が望ましいと考えられた。
- 6
- ① 大橋浩一郎、Seki E
 - ② NAFLD併存の大腸癌肝転移発育におけるNLRC4インフラマゾーム及びマクロファージの関与
 - ③ Digital Poster
 - ④ 第26回 日本消化関連学会週間(消化器外科学会)
 - ⑤ 神戸
 - ⑥ 2018/11/2
 - ⑦ 大腸癌の転移性肝腫瘍マウスモデルを用いて、NAFLDにおける腫瘍内のマクロファージとNLRの関与についての解析を行った。正常肝に比べNAFLDの方が癌の発育が早く、NLRC4のM2マクロファージ形成を介した癌発育への関与が示唆された。
- 7
- ① 山崎純也、大橋浩一郎、濱田哲宏、宇多優吾、大原重保、児島正道、西野雅行、黒田暢一
 - ② 長期間の心筋梗塞、閉塞性動脈硬化症治療中に診断された下行結腸癌に対し、腹腔鏡下手術を施行した1例
 - ③ デジタルポスター
 - ④ 第31回日本内視鏡外科学会
 - ⑤ 福岡
 - ⑥ 2018/10/28

⑦

- 8 ① 西野 雅行、黒田 暢一、山崎 純也、児島 正道、大原 重保、宇多 優吾、濱田 哲宏、大橋 浩一郎
② 腹腔鏡下脾臓摘出術により診断し得た脾サルコドーシス症の1例
③ 口演
④ 第43回日本外科系連合学会
⑤ 東京
⑥ 2018.06.22
⑦ 腹腔鏡下脾臓摘出術により診断し得た脾サルコドーシス症の1例
- 9 ① Masayuki Nishino, Koichiro Ohashi, Hamada Tetsuhiro, Uda Yugo, Shigeyasu Ohara, Shoudo Kojima, Junya Yamazaki, Nobukazu Kuroda
② 急性胆嚢炎に対する胆嚢ドレナージ後待機的手術の至適施行時期の検討
③ ミニオーラル デジタルポスター
④ 第73回日本消化器外科学会総会
⑤ 鹿児島
⑥ 2018.07.13
⑦ 至適施行時期については患者の希望も尊重すべきではあるが、早期の手術が妥当ではないかと考えられた
- 10 ① 西野 雅行、黒田 暢一、山崎 純也、児島 正道、大原 重保、宇多 優吾、濱田 哲宏、大橋 浩一郎
② ESTによる総胆管結石既治療後の腹腔鏡下胆嚢摘出術後follow upの必要性の検討
③ 口演
④ 第31回;日本内視鏡外科学会総会
⑤ 福岡
⑥ 2018.12.08
⑦ 総胆管結石既治療例における胆嚢摘出後followの必要性は、1年間の画像診断が望ましいと考えられた。